

2

確かな学力の向上

(1) 教育内容の充実

① 少人数学級・少人数指導の充実

■ 少人数学級・少人数指導

子ども一人一人の個性に応じたきめ細かな指導を行うため、少人数学級や少人数指導を実施している。

○ 具体的な取組

(ア) 少人数学級

- ・1学級の子どもの数の上限を40人より少なくする少人数学級を実施する。

※ 小学校1年生の学級編制の標準を35人に引き下げ、35人以下学級を推進すること等の法律が改正され、平成23年度から全国的に実施されている。

- ・平成15年度から35人学級（1学級の子どもの数の上限が35人）を段階的に導入し、現在では、小学校1～4年生と中学校1年生の全学級で35人学級を実施している。

※ 小学校1・2年については、県下全小学校で35人学級を実施

35人学級の導入時期

学 年	導入時期
小学校1年	平成15年度
小学校2年	平成16年度
小学校3年	平成18年度
小学校4年	平成19年度
中学校1年	平成21年度

(イ) 少人数指導

- ・1つの学級の授業を複数の教師が行ったり（ティーム・ティーチング）、1つの学級を複数に分けて各々の教師が授業を行ったりする。
- ・公開授業を実施するほか、「時間・空間・仲間」を効果的に生かした少人数指導における指導法の研究に取り組み、共有化を図る。また、広報紙やホームページの動画配信等を通し、多くの教職員が様々な場で学べるようにする。
- ・平成26年度から新たに小学校、中学校で少人数指導の研究モデル校を指定し、指導方法工夫改善加配の教師を活用した少人数指導法の実践研究を、学力向上の観点から検証する。

② 言語活動の充実

思考力・判断力・表現力を育成するために、国語科だけでなく、各教科等において言語活動を充実させ、言語能力の向上に努める。

そのために、次のような視点に立ち、具体的な取り組みを進めていく。

- ・伝え合うことを通して学び合い、高め合うことができる学習活動の設定
- ・言語活動の基礎となる能力の育成を重視した国語科授業の推進
- ・各教科等における教科目標達成のための手段としての言語活動の位置付けと、指導の充実のための年間指導計画の作成
- ・学校生活全体における言語環境の整備
- ・学校、家庭、地域を通じた読書活動の推進と読書習慣の確立
- ・情報センターとしての学校図書館の充実と授業における積極的な活用

③ 理数教育の充実

理科や算数・数学などを学ぶことの意義や楽しさを実感させ、基礎的・基本的な学習内容の習得と、思考力・判断力・表現力等を育てるための活用に向けて、授業等の改善に努める。

そのために、次のような視点で具体的な取組を進めていく。

- ・導入から結果・考察、結論まで、子どもの思考がつながる授業の推進
- ・観察・実験等の体験的な活動の充実による、わかる授業の推進
- ・比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する。
- ・仮説や予想を立てて、観察・実験を行い、その結果を考察し、表現する。
- ・「ものづくり」を通したり、「日常生活」と関連させたりする授業の推進
- ・理科実験事故防止講習会等の研修の充実（熊本大学教育学部との連携等）

④ 学力向上支援員派遣事業

児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、平成25年度から学力向上支援員を派遣し、本市小学生の学力向上をめざす。

○ 取組内容

本年度、小学校の3、4年生の算数の授業に、3人の退職教員を「学力向上支援員」として派遣し、授業等に参加し、児童一人一人を直接支援していく。

○ 主な支援内容

- ・授業における児童への学習支援
- ・学習習慣等の課題検証
- ・学級及び学年の学力向上策支援



⑤ 「学びノート」の活用と「学びノート教室」の開催

平成14年度から実施された学習指導要領を受け、本市では、平成16年度から基礎学力の充実を図るために、ぜひ身に付けてほしい基礎・基本の問題集「学びノート」を作成している。

平成20年3月に告示された新学習指導要領においても、児童生徒に「生きる力」を育成するという基本理念を大切にしながら、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をバランスよく育てていくことが重視されており、基礎学力の充実に役立てるために学びノートの改訂を重ねている。（平成23年度に小学校、平成24年度に中学校を全面改訂。）

「学びノート」には、子どもたちに習得させたい基本的な問題を多数掲載するとともに、答えや解説も掲載しており、授業でも、自学自習でも活用することができるようにしている。特に小学校の国語・算数については、学びノートを印刷製本し、全児童に1冊ずつ配布して、基礎・基本の充実のために活用しやすくしている。なお、中学校には、今までのDVDに加え、学校に冊子を1冊ずつ配布



平成26年度版小学校学びノート

し、活用の向上に努めている。

平成18年度からは、全小学校において、放課後の時間を活用し、3年生以上の希望者を対象とした「学びノート教室」を開催している。各小中学校に学びノート教室サポーターを配置し、「学びノート」の活用を通して、学ぶ意欲の向上や学びの習慣化を目指し、子どもたちの基礎学力の定着を図るようにしている。



学びノート教室での子どもたちの様子

⑥ 学校規模適正化

近年、少子高齢化の進展が続いている現状において、子どもの減少による小中学校の小規模化は、学校運営や教育効果等に様々な影響を与えることが考えられ、全国的な課題となっている。

本市においても、小学校の児童数及び中学校の生徒数は減少傾向にあり、農業振興地域や山間部等の地域では、児童・生徒数の減少傾向が著しく、複式学級がある学校もある。また、一部の地域では住宅開発による人口の流入により、大規模化する学校もあり、教室不足等により学校運営に支障をきたしている状況もみられる。

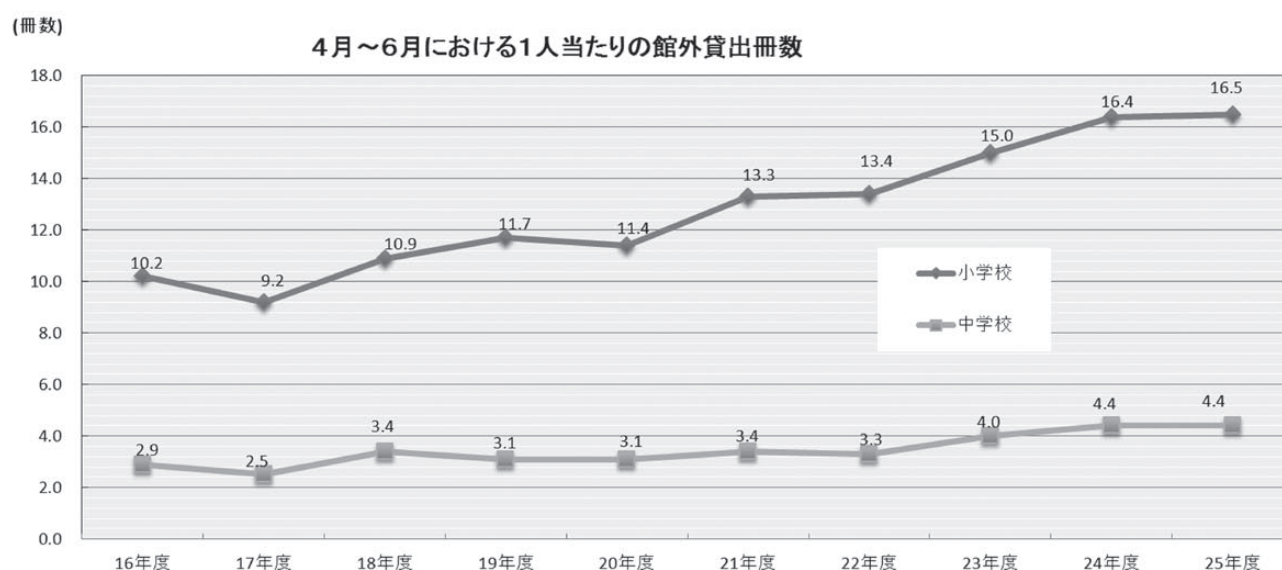
このような状況から、教育委員会では、本市における小中学校の規模及び配置のあり方について基本的な考え方を整理し、今後の適正化に向けた具体的な方策等を示した「熊本市学校規模適正化基本方針」を平成26年6月に策定し、子どもたちにとって良好な教育環境の整備の充実に取り組んでいく。

(2) 学校図書館の充実

① 学校図書館の効果的な活用

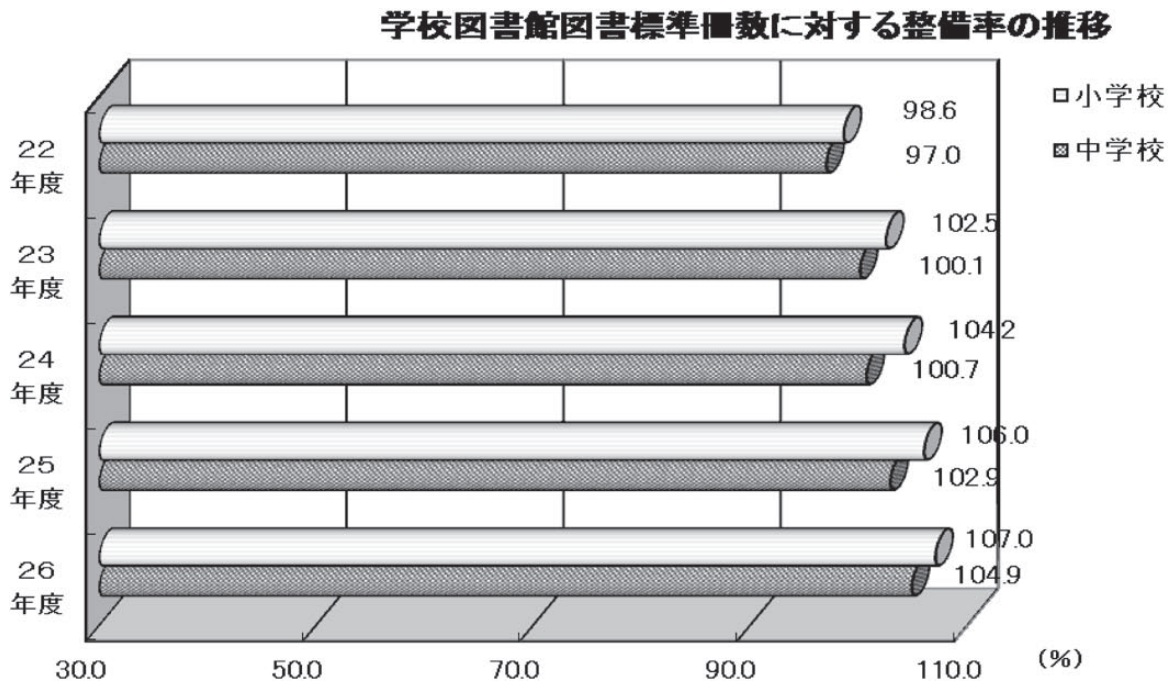
■ 学校図書館司書業務補助員配置

学校図書館の機能の充実と円滑な運営を期するため、図書館主任や司書教諭の補助として、図書館業務にあたる司書業務補助員を、平成12年度から市立全小・中学校に配置している。



■ 蔵書購入

文部科学省が定める「学校図書館図書標準」に基づき、全校が100%を達成するよう蔵書の充実を図っている。（図書購入費：小学校1校あたり平均32万円、中学校1校あたり平均50万円）



② 学校図書館支援センター推進事業

庁内関係部署との連携のもと、学校図書館支援センターを中核にして、蔵書データベースと情報ネットワークの管理、図書物流システムの運営など、学校図書館や市立図書館・公民館等図書室の図書を活用した授業支援や読書活動を推進している。

このことにより、学校や家庭における子どもの読書活動を支援し、子ども達が本に触れ、本に親しむ機会を創出している。

（これまでの主な実績）

平成13年度	学校図書館蔵書のデータベース化、図書の検索・貸出の電算化
平成14年度	学校図書館及び市立図書館・公民館図書室の共通利用カードの発行
平成14・15年度	研究実践協力校43校による図書資料の流通試行
平成14～16年度	「物語定期便」用図書の購入
平成16年度	市内全小中学校117校における図書資料の流通開始
平成16年度～	調べ学習フェスタ（平成21年度より調べ学習コンクール）の実施
平成17年度	読書活動ホームページの開設
平成18年度	学校図書館支援センターの開設
平成20年度	学校図書館支援センター事務局を市立図書館に移行
平成21年度～	おすすめ図書ガイドブック「としょかんへおいでよ」の作成と配布
平成23年度～	新しくなった「物語定期便」の学校間巡回開始

（主な事業）

・「物語定期便」

市立図書館が管理する、1セット120冊の物語図書等を「物語定期便」として各学期内に4週

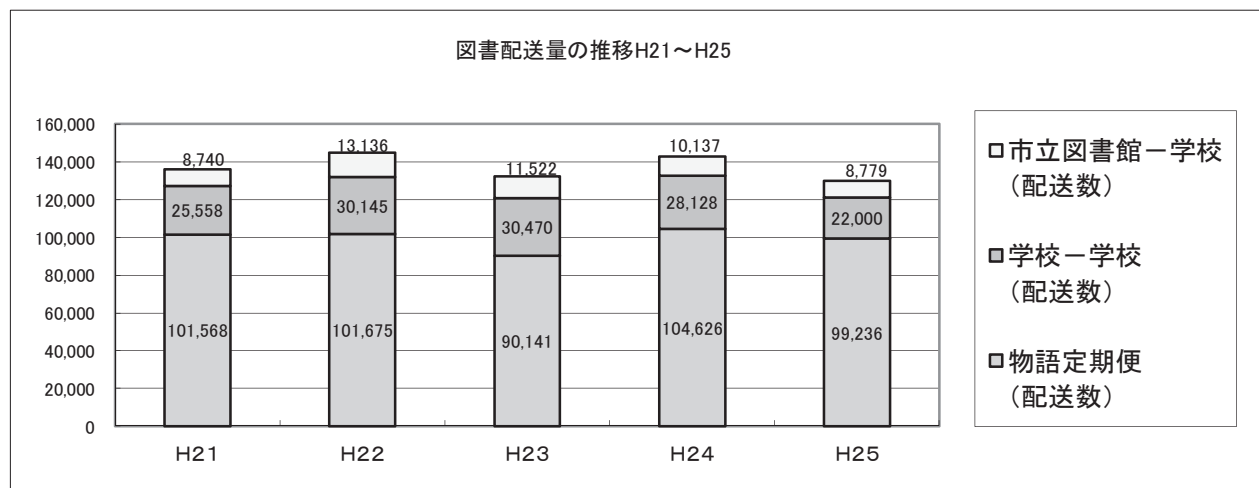
間に1回の周期で各学校に貸し出している。

なお、長年の使用に伴い、平成22年度に各学校の学校図書館司書業務補助員等が選書を行い、物語定期使用図書の買い替えを行った。

・「リクエスト便」

調べ学習用の図書や物語図書等を児童生徒、教職員のリクエストに応じて、他校や市立図書館・公民館図書室等から貸借するしくみのことで、書名を決めて依頼する「書名リクエスト」と、単元やテーマ等により依頼する「テーマリクエスト」の2種類の依頼方法を実施している。

このほか、「特別支援学級セット」、「郷土資料セット」といったパッケージ化した図書資料のセットのリクエストも受け付けている。



(3) 国際教育の推進

国際社会に生きる日本人を育成するために、外国語活動の充実を図りながら、自国の伝統や文化を学ぶとともに、英語等の外国語の基礎やコミュニケーション能力を身に付け、異文化交流体験等を通じて相互の社会や文化・歴史等に対する理解を深める。

■ 英語指導者招致事業

総務省、外務省、文部科学省及び（財）自治体国際化協会の協力の下、「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」により、昭和63年度から外国語指導助手（ALT）を招致しており、中学校・高校において日本人英語教員とのチームティーチングによる英語指導に当たっている。

小学校においても、外国語活動や総合的な学習の時間における国際理解教育の一環として、積極的に英語とかかわる活動を取り入れ、平成19年度からは全小学校にALTを派遣している。また、小学校においては地域人材活用による外国語指導助手も5名配置している。

ALTの配置状況

年 度	小学校	中学校	高 校	地域人材	合 計
平成22年度	28人		1人	2人	31人
平成23年度	28人		1人	2人	31人
平成24年度	28人		1人	2人	31人
平成25年度	28人		1人	2人	31人
平成26年度	27人		1人	5人	33人

■ 日本語指導

外国人児童生徒等にセンター校（黒髪小学校、桜山中学校）での指導を中心とした日本語の指導並びに学習指導、生活適応指導等を行い、小学校・中学校における外国人児童生徒等の教育の充実に努めている。

日本語指導を受けた児童生徒数

年 度	小学校	中学校	合 計
平成22年度	30人	17人	47人
平成23年度	27人	19人	46人
平成24年度	33人	13人	46人
平成25年度	45人	16人	61人
平成26年度（5月）	29人	18人	47人

■ 外国語教育の充実

- ・小学校段階における外国語活動の推進 ・全小学校への熊本市版英単語絵カードの配布
- ・全5・6年担任へのクラスルームイングリッシュCDの配布
- ・全5・6年担任へALTによるニュースレターの毎月配布
- ・全中学校へのデジタル教科書の導入と活用 ・ブラッシュアップイングリッシュセミナーの実施
- ・熊本市スピーチテストの開発と全中学校英語教員へのスピーチテストマニュアルの配布
- ・ALTの効果的活用（イングリッシュキャンプ、サマーイングリッシュクラス、教職員研修、ALT複数派遣による中学校スピーチテストの実施、ALTプロジェクトマネージャーの設置）
- ・英語教育推進委員会の開設 ・国際交流員、地域人材の活用、国際交流関係諸団体との連携
- ・異文化交流体験の推進 ・英語等の外国語の基礎や実践的コミュニケーション能力の育成

（４） 教育の情報化の推進

学校にコンピュータやインターネット等が使える ICT 環境を整備するとともに、熊本市地域教育情報ネットワークシステム（通称：e-net）を活用して、教育の情報化を進めている。

また特に、ICT（情報通信技術）活用による「わかる授業」を目指し、「かわる」をキーワードにして、「授業がかわる」「子どもがかわる」「学校がかわる」の3つの側面から教育の情報化に取り組んでいる。

- ・授業がかわる（ICTを活用した「わかる授業」の実現、ICTで築く確かな学力）教員のICT活用指導力の向上を図り、創意工夫した質の高い授業を実現する。
- ・子どもがかわる（情報活用能力・情報モラルの育成）
信頼性のある情報、必要な情報を収集し、判断して活用できる能力を育てる。
学校と家庭が連携・協力して、情報モラル教育を推進する。
- ・学校がかわる（校務の情報化、学校と家庭・地域との連携等）
各学校ホームページを活用し、学校の情報を家庭や地域等に発信する。
個人情報保護のためのセキュリティ対策を行い、校務の効率化のために情報化を推進する。

① 整備方針

平成10年度から平成14年度の5年間で、国庫補助制度等を活用し、小中学校のコンピュータ室及び機器の整備を行い、平成14年度から授業におけるコンピュータ機器の活用を本格化している。

これに併せて、平成14年度から平成16年度までの3ヵ年で全小中学校に校内LANの整備を進め、電源の確保に伴う改修工事等を行うとともに、教材提示用のコンピュータ及びプロジェクタを配

備した。なお、コンピュータ機器については、整備計画に基づき更新を行っている。

ア 教育センター：熊本市地域教育情報ネットワークの中心施設として整備

各種サーバ設置、ICT 研修室整備、ヘルプデスクサポート

イ 学校 小学校：コンピュータ室 20 台、図書室 2 台、職員室 1 台、校内 LAN 構築

（電子黒板を 1 台、デジタルテレビを 3 学級に 1 台配置、プロジェクタを 3 学級に 1 台配置。職員室 LAN 構築。特別支援学級を設置する学校に 1 台パソコン配置。教員用パソコン一人 1 台の配備）

中学校：コンピュータ室 40 台、図書室 2 台、職員室 1 台、校内 LAN 構築

（パソコンを通常学級に各 1 台、電子黒板を 1 台、デジタルテレビを 3 学級に 1 台配置、プロジェクタを 3 学級に 1 台配置。職員室 LAN 構築。特別支援学級を設置する学校に 1 台パソコン配置。教員用パソコン一人 1 台の配備）

② 熊本市地域教育情報ネットワークシステムにおける主な提供システム

ア 教材及び教育情報等の配信システム

- ・教育センターホームページのリニューアルによる教育情報提供システムの改善
- ・「わかる授業」のためのデジタル教材開発及び提供
- ・「情報モラルの授業」「わたしたちの熊本」をはじめ、役に立つ教育情報の提供
- ・「先生チャンネル」などの動画による、OJT に役立つ資料の提供

イ 図書管理・検索システム

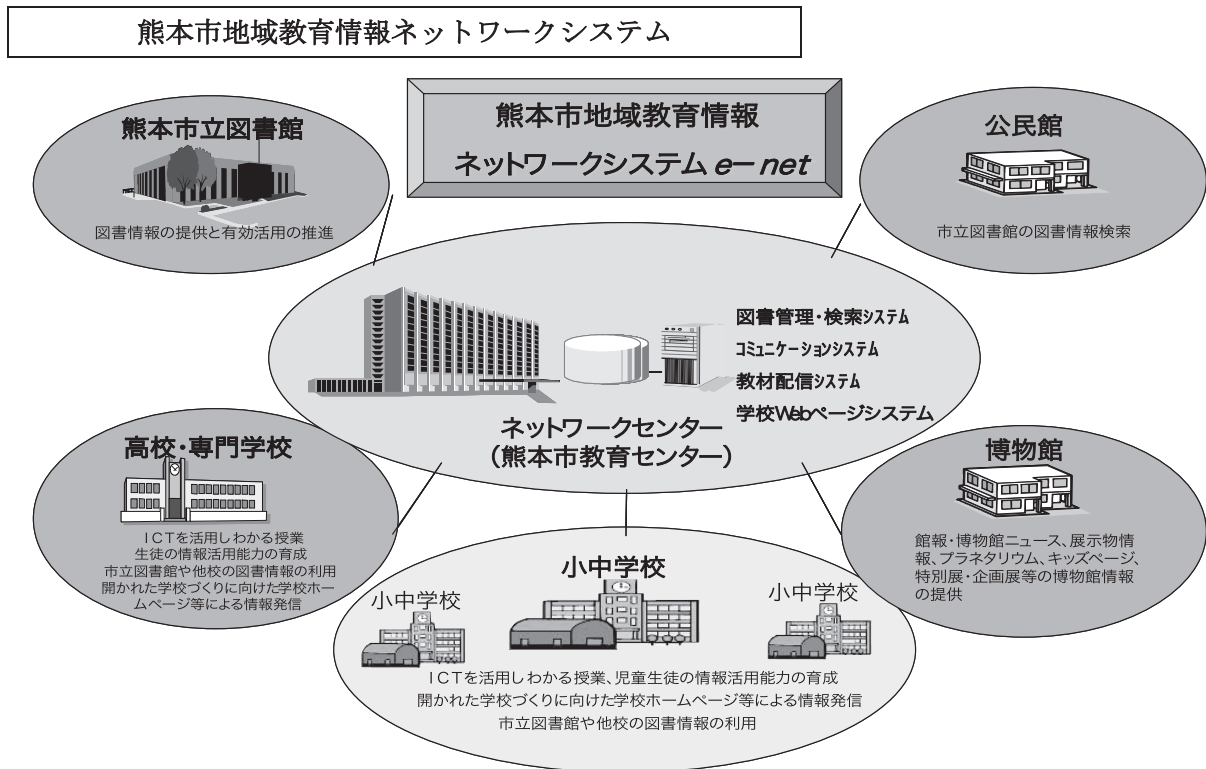
- ・学校図書館の蔵書情報の一元管理及び学校間における図書の有効活用の推進
- ・各学校図書のバーコードによる貸出、返却システム導入による省力化の推進

ウ 学校 Web ページシステム

- ・開かれた学校づくりとしてのさまざまな学校情報の提供
- ・校長の決裁による即時更新システム

エ ゆうネットシステム、e-net メール

- ・グループウェアによる学校内外との情報の共有化の推進
- ・電子メールによる校務の効率化の推進



③ 教員のスキルアップ、サポートの充実

ア 研修の充実：ICTを活用した「わかる授業」の実現

(研修概要)

- ・新転採管理職教育の情報化研修（新・転採校長、教頭）
- ・情報教育担当者研修（各校1人）
- ・ICTを活用した授業づくり研修（各校1人半日講座）
- ・教育の情報化セミナーによる研修（各校1人半日講座）
- ・ICT活用研修（希望者）4講座
- ・トワイライト研修（教科指導におけるICT活用、児童生徒の情報活用能力の育成）13講座14日
- ・小・中・高等学校の保護者対象へのネットトラブルの現状と対策研修（1講座）
- ・パッケージ研修によるICT活用の校内研修支援

イ 研究・開発の充実：ICTを活用した授業づくり、児童生徒の情報活用能力の育成

(研究概要)

- ・地域教育情報ネットワークシステムの冗長化
- ・「わかる授業」のためのデジタル教材開発
- ・教育情報提供システムの開発（動画番組「先生ちゃんねる」「情報モラルの授業」等）
- ・情報モラル教育カリキュラム開発と推進
- ・研究指定校（ICT活用）による研究
- ・研修プログラムの研究開発

「ICTを活用した授業づくり研修開発」

「児童生徒の情報活用能力育成のための研修開発」

ウ サポート体制の充実：「わかる授業」の実現のためのヘルプデスク等支援の充実

(支援概要)

＊ヘルプデスク（10人）学校担当及び教材作成担当制

- ・授業支援

- ・校内研修支援
- ・校内 LAN 活用支援
- ・ネットワーク管理
- ・電話等問い合わせ支援、障害・トラブルへの出前対応
- ・授業用デジタル教材作成
- ・指導案のデータベース化等校務の ICT 化支援

学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（平成25年3月現在）

コンピュータ整備の実態等

	教育用コンピュータ1台当たり児童生徒数				普通教室のLAN整備率			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	6.5	7.5	6.5	5.1	84.4	82.5	81.8	93.5
熊本県	5.7	7.3	5.8	3.8	91.6	91.6	90.8	96.3
熊本市	13.5	18.2	10.3	3.7	98.7	100.0	100.0	35.7

教員のICT活用指導力の状況

	A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力				B 授業中にICTを活用して指導する能力				C 児童・生徒のICT活用を指導する能力			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	79.7	80.9	77.0	81.1	67.5	70.4	62.9	67.3	63.7	67.4	58.2	65.1
熊本県	83.2	85.3	81.4	81.4	71.9	75.5	69.0	67.4	63.5	67.2	58.7	63.1
熊本市	81.9	83.8	79.2	74.6	70.8	74.3	65.9	58.3	61.0	64.6	54.7	60.7

	D 情報モラルなどを指導する能力				E 校務にICTを活用する能力			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	74.8	78.4	71.2	75.2	75.5	75.7	73.3	79.4
熊本県	77.0	81.1	74.3	74.3	76.3	77.2	73.4	78.9
熊本市	76.1	78.8	71.7	74.1	73.6	75.9	69.8	73.7

（５） 教職員研修の充実

広い視野と使命感、専門的知識や能力をもった教職員を育成し、教職員力（マネジメント力・実践的指導力・教師としての基盤）の向上を図るために、教職員の研修の場と機会を確保するとともに研修内容の充実を図る。

キャリアステージと

基礎期(1～3年)

基礎基本の力を身につける

向上期(4～)

協働して自らの

教職員力

マネジメント力

先輩の指導を受けながら、組織の一員として誠実に職務を遂行する力を身につける。

組織に貢献しようとするの向上に努め、同僚と共に業務を遂行する力

実践的指導力

学習指導・生徒指導に関する職務の基礎的な理解及び基礎的な指導技術や技能を習得する。

自らの実践を省察する実践的・専門的な知識や技術を伸ばす。

教師としての基盤

先輩の指導を謙虚に受けながら、職務を遂行するための基本的な知識や感覚を身につける。

先輩の指導を生かし、言ができる。また、専門向上に努める。

教育公務員としての自己権に関する確かな理解と日々、「教育都市くまもとの

研修の場

OJT

校内研修支援(パッケージ研修,指導主事派遣
初任校研修
研究委嘱・指定校
教育情報の配信

初任者研修
(校内:120h以上,校外:19日)
熊本市教職員1年目研修
2年目研修
3年目研修

Off-JT

教育講演会,主任担当者研修,教科等研修
センター研修(情報教育担当者研修,幼児教育

SD

教師塾「き

研修施設派遣,先進校派遣,教育情報の配
センター研修(教科等教育,特別支援教育,教

熊本市教育委員会

しての教職員研修体系

10年) 力を伸ばす	充実・発展期(11～20年) 自らの専門性を高め リーダーとしての力を伸ばす	発展・円熟期(21年～) 全校的な視野に立って リードする力をつける
る意欲と実践力 連携しながら着 を身につける。	リーダーとして高度な知識・技能の習得を自覚し、後輩の育成に努めるとともに、組織全体について課題を精査し、工夫改善の意欲をもって、チームで業務を遂行する力を身につける。	指導者・管理職として、全校的視野に立った企画力・経営力、学校内外の能力や資源を開発・活用する力を身につける。
ることによって、実 技能を習得し、学	自らの実践を省察することによって、高度な知識や技能の習得を自覚し、リーダーとして効果的に実践できる。	全校的な視野・人材育成の視点に立って省察し、高度な知識や熟練した技能を活かして、教職員の力量形成を支援・指導する。
後輩へ適切な助 職としての資質	後輩の手本となるとともに、後輩の発言や行動について適切に助言を行う。また、専門職としての自覚を高める。	後輩の手本となるとともに、後輩の発言や行動について適切に助言・指導を行う。また、学校全体の風土の醸成に尽力する。

覚・規範意識を持ち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行する。
豊かな人権感覚を身につけ、状況に応じて的確な行動・発言を行う。
教職員像」を意識し、その具現化に努める。

), ステップアップサポーター・学力向上支援員派遣,
・研究モデル校

10
年
経
験
者
研
修

15
年
経
験
者
研
修

20
年
経
験
者
研
修

など課題別研修, 指導改善研修,
研修)

新任管理職研修

らり」 OBOG講座 (塾生の養成・師範の養成)

信,
育の情報化, カウンセリング, 授業づくり, コーチング, 心のリラックス)

■ 授業力向上支援員（ステップアップ・サポーター）派遣事業

授業力の優れた退職教員（ステップアップ・サポーター）を、小・中学校に派遣し、授業に即して支援し、また、学校全体を支援し、校内研修の活性化、学校訪問の充実など、教職員の授業力向上を図っている。

	小学校		中学校		合 計	
年度	派遣学校数	研修者実数	派遣学校数	研修者実数	派遣学校数	研修者実数
H21	61校	206人	25校	84人	86校	290人
H22	76校	211人	32校	148人	108校	359人
H23	68校	194人	28校	98人	96校	292人
H24	63校	149人	35校	105人	98校	254人
H25	89校	378人	41校	185人	130校	563人

■ 校（園）内研修

各学校や園においては、学校教育目標の達成のために、実態に応じて研究主題を設定し、組織的・計画的に研修を行い、各教科等の授業における「指導力の向上」及び子どもの理解や学級経営等につながる「教師としての資質や能力の向上」を図っている。

平成25年度 1校（園）あたりの平均実施状況

幼稚園 41.1回 小学校 28.7回 中学校 24.6回

■ 校外研修（Off-JT）における経年者研修

講座名	研修の目的		
初任校研修	「教育都市くまもとの教職員像」を意識し、その具現化に努める。 - 基礎的・基本的指導力を習得し先輩の指導を受けながら、組織の一員として誠実に職務を遂行する力を身に付ける。	初任者研修	教職員としての基礎基本
		熊本市教職員1年目研修 (初任者研修修了者)	教職員としての資質や能力と幅広い知見
		初任校（2年目）研修	主に生徒指導に関する指導技術の向上
		初任校（3年目）研修	主に学習指導に関する指導技術の向上
10年経験者研修	向上期における自ら身に付いた力を振り返るとともに、充実・発展期における「マネジメント力」「実践的指導力」「教師としての基盤」を具体的に意識する。		
15年経験者研修	充実・発展期における「マネジメント力」「実践的指導力」「教師としての基盤」を確実に身に付ける。		
20年経験者研修	充実・発展期における自ら身に付いた力を振り返るとともに、発展・円熟期における「マネジメント力」「実践的指導力」「教師としての基盤」を身に付ける。		
新規臨採研修	- 熊本市の教育公務員としての自覚 - 学校経営重点計画をいかした課題解決 - キャリアステージの意識化と、自己課題の解決		
2年目臨採研修			
3年目臨採研修			
臨採研修 (4年以上)			

社会体験研修は、教育現場とは異なる職場で働く人々の勤労意識に学び、社会人としてのあり方を考えることを目的とし、初任者研修で3日間、10年経験者研修で2日間行っている。

■ 新任管理職研修

○ 事業の目的

新任の学校管理職に対して、事例研修や講話・演習等を取り入れた研修を実施し、学校管理職としてのスキルや資質・力量を高めるとともに、実践的且つ総合的な学校経営力の向上を図るために、職能研修として平成26年度から開講された。

市校長会・教頭会の支援のもと、学校問題事例研究発表会を開催するとともに研究発表会の成果等を、新任管理職研修テキスト（学校問題事例集）としてまとめる。

○ 平成26年度の事業（研修生：新任校長28人、新任教頭34人）

・研修講座7回

講話・演習 (心構え、学校経営重点計画の活用、 危機管理体制、人事評価等)	5回 (新任校長・新任教頭別研修2回含む) (悉皆研修3回、トワイライト研修2回)
講演会・学校問題事例研究発表会 午前：講演会 「リーダーシップとマネジメント」 午前：学校問題事例研究発表会	1回(新任校長・新任教頭別) 新任校長対象1回(全小・中校長参加) 新任教頭対象1回(全小・中教頭参加)
学校問題事例研究発表会に向けて	1回(トワイライト研修)

・新任管理職研修テキスト（学校問題事例集）の作成

■ 特別研修 教師塾「きらり」

○ 事業の目的

教師の授業力向上と「学び続ける教員」としての資質を育成することを目的にして、平成24年度から開講された。採用4年目から10年目までの小中学校教諭を対象とした希望研修であり、塾生は1年間の研修を受ける。塾生は、経験豊かで優れた授業力をもつ師範による「指導授業」や全国的に著名な実践家による「講師招聘授業」を参観する。また、研究授業を公開したり、実技講座を受講したりする。それらの活動をとおして授業の実践的指導力やそれを支える理論を学ぶ。

平成25年度は、塾生OBOGによる講座と研究発表会を開催し、教師塾修了生が自主的に学びあい、自らの実践を報告する場を設けた。さらに、市外の先進校・研究実践校に学ぶための師範1名と塾生3名の派遣研修を実施した。

平成26年度は、塾生OBOGの派遣研修を行う。

○ 平成25年度の実績（塾生30人）

特別講師招聘授業	2回
外部講師による講話・模擬授業	5回
師範の指導授業	30回
塾生の研究授業	87回
実技講座	10回
一期生による実践・研究発表会	1回
OBOG講座	7回
派遣研修	4人



○ 平成26年度の事業（塾生30人）

特別講師招聘授業	2回
外部講師による講話・模擬授業	5回
師範の指導授業	30回
塾生の研究授業	90回
実技講座	10回
一期生による実践・研究発表会	1回
OBOG講座	6回
派遣研修	16人程度

■ 授業研究の充実《学びわくわく小中学校授業研究会》

各教科等及び特別支援教育の専門的知識を深めるとともに、教育課程及び学習指導法等について研究協議を深め、教職員の指導力の向上を図る目的で、授業研究会の充実に努めている。

「授業研究会の日」を、6月・10月・2月に実施し、このうち一斉開催を中学校は10月、小学校は2月に実施する。

研 究 会 名		授業研究会実施回数					
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
小 学 校	熊本市小学校国語教育研究会		7	9	7	9	11
	熊本市小学校書写教育研究会		1	1	1	1	1
	熊本市小学校社会科教育研究会		5	5	5	6	6
	熊本市小学校算数教育研究会		3	5	5	5	5
	熊本市小学校理科教育研究会		4	4	3	4	4
	熊本市小学校生活科・総合的な学習研究会		9	6	7	3	3
	熊本市小学校音楽教育研究会		4	4	4	4	4
	熊本市小学校家庭科教育研究会		4	5	5	4	4
	熊本市小学校体育研究会		7	6	5	7	7
	熊本市小学校道德教育研究会		5	3	4	4	4
	熊本市小学校特別活動研究会		4	4	5	5	5
	熊本市小学校外国語活動研究会			3	4	4	4
	小学校計		53	55	55	56	58
中 学 校	熊本市中学校国語教育研究会		3	4	4	4	4
	熊本市中学校社会科教育研究会		3	3	3	3	3
	熊本市中学校数学教育研究会		3	3	5	5	5
	熊本市中学校理科教育研究会		5	4	4	5	5
	熊本市中学校音楽教育研究会		1	1	1	1	1
	熊本市中学校体育研究会		3	5	5	5	5
	熊本市中学校技術・家庭科教育研究会		2	2	2	2	2
	熊本市中学校英語教育研究会		4	5	5	4	5
	熊本市中学校道德教育研究会		※	1	※	1	※
	熊本市中学校特別活動研究会		※	0	※	0	※
	中学校計		24	28	29	30	30
合 同	熊本市小中学校図画工作美術教育研究会	小	3	4	4	4	4
		中	1	1	1	1	1
	熊本市特別支援教育研究会	小	5	6	5	5	5
		中	1	1	4	4	4
	総 計		87	95	98	100	102

※中学校の「道德」「特別活動」については、教育委員会主催の授業研究会を行った。

■ 学校教育アドバイザー事業

平成15年度から、熊本大学教育学部の協力により、教授、准教授等をアドバイザーとして市立の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園に招聘する。専門分野からの指導助言を得ることにより、校内研修会や教科等教育研究会の充実を図り、教職員の指導力向上に資する。

○ 平成25年度活用実績

	幼稚園	小学校	中学校	研究会 (小)	研究会 (中)	委員会 (センター)	計
校(園)	2	20	5				27
回数	2	38	11	5	11	24	91

○ 平成25年度講師数 32人(91回)

■ 研究委嘱校(園)、研究指定校・研究モデル校

子どもたちの学力充実を図るとともに、教職員の指導力向上を図るために、課題について研究を委嘱し、成果を発表する。

○平成25・26年度熊本市教育委員会研究委嘱校（園）・研究指定校一覧

学校名	研究領域	研究発表日	研究主題
出水南中学校 (指導・委嘱)	教育課程	10月 3日 (金)	教育活動全体を通じて行う、自他を大切に、 思いやりの心をもつ生徒の育成 ～道徳の時間の工夫と、 各教科等の授業に「出南タイム」(協同的学習)を位置づけて～
川尻小学校 (教セ・指定)	学力充実 少人数学級 少人数指導	10月 8日 (水)	みんなでわかる、のびる、たのしい授業づくり(算数科) ～授業のねらいを焦点化し、視覚化・共有化を通して～
池上小学校 (指導・委嘱)	教育課程	10月17日 (金)	思考力・表現力をはぐくむことばの力の育成 ～子どもの思いや考えをつなぎ、高める算数科の授業～
城南小学校 (指導・指定)	学力充実	10月21日 (金)	学ぶ意欲と学び方の育ちを通した学力の定着・向上をめざして ～ユニバーサルデザインの考えをもとにした 国語・算数の授業を通して～
田原小学校 (指導・委嘱)	教育課程	10月24日 (金)	見通しをもち、考えを伝え合い、伸びを実感できる子どもの育成 ～UDの視点で板書が変わる、ノートが変わる、 学級集団が変わる算数科授業～
江南中学校 (教セ・指定)	学力充実 教育の情報化	10月24日 (金)	「学び」を高めあう学習者の育成 ～情報モラルを基盤とした情報活用の実践力の育成を通して～
出水南小学校 (指導・委嘱)	教育課程	10月29日 (水)	関わりを深め自分の考えを表現できる子どもの育成 ～道徳・国語・特活における言語活動を通して～
鹿南中学校 (総支・指定)	学力充実 生徒指導	10月29日 (水)	主体的に考え、判断し、行動できる生徒の育成 ～生徒指導の3つの機能を生かして～
熊本五福幼稚園 (指導・委嘱)	教育課程	10月31日 (金)	一人一人の「自信の種」をはぐくむ保育をめざして ～子どもを認め伸ばす援助や評価活動のあり方～
城北小学校 (総支・指定)	学力充実 特別支援教育	10月31日 (金)	特別支援教育の視点を大切にしたい学びの創造 ～学習環境の調整、円滑な人間関係づくり、 授業のUD化の取組を通して～
画図小学校 (指導・委嘱)	教育課程	11月14日 (金)	認め合い、学び合い、高め合う授業の創造 ～3つの「なぜ」と言語活動の充実が「学び」を活性化させる！～
月出小学校 (指導・指定)	学力充実	11月20日 (木)	確かな学力を身につける授業の工夫 ～「できた」「わかった」「楽しい」と 感じる子どもの姿をめざして～
西山中学校 (指導・委嘱)	教育課程	11月26日 (水)	わかる喜びを実感し、意欲的に学ぶ生徒の育成 ～学びの質を高める3つの柱を手立てとして～

○平成26・27年度熊本市教育委員会研究委嘱校（園）・研究指定校一覧

委嘱校・指定校	学校名
研究委嘱校	下益城城南中学校(教育課程) 東町小学校(教育課程)
研究指定校	城山小学校(学力充実) 西里小学校(学力充実) 吉松小学校(学力充実) 田迎西小学校(学力充実・教育の情報化) 河内中学校(健康教育)

○平成26年度熊本市教育委員会研究モデル校一覧

研究領域	主管課	モデル校名
少人数指導 (算数・数学)	教育政策課 教育センター 指導課	力合小学校・高平台小学校・川上小学校・東部中学校・飽田中学校
道徳教育	指導課	一新小学校・白川中学校
I C T活用(国語)	指導課 教育センター	江南中学校
英語教育	指導課	尾ノ上小学校・月出小学校・山ノ内小学校・錦ヶ丘中学校・必由館高校

(6) 小中一貫教育

富合小学校と富合中学校は、平成16年度から、小中一貫教育の特区認定を受け、小中学校間のスムーズな移行を図るとともに、子どもたちの発達段階や個性に応じた特色ある教育活動を推進している。

平成20年度からの構造改革特別区域研究開発学校設置事業の全国展開に伴い、文部科学省へ教育課程特例指定変更申請を行い、教育課程特例校としての承認を受けた。

その取組を積極的に公開するとともに、小中一貫教育検証検討委員会の議論も踏まえ、平成25年度まで小中一貫教育の成果の検証と改善を積み重ねてきたが、平成26年度から、熊本市小中一貫教育検討委員会を発足させ、本市におけるこれらの小中一貫教育のあり方について検討していくこととしている。

(7) 高等学校及び専門学校の活性化の推進

本市は、普通科と普通科3コースを有する熊本市立必由館高等学校（全日制高等学校）、普通科2コースと情報科2コースを有する熊本市立千原台高等学校（全日制高等学校）、そして熊本市立総合ビジネス専門学校（商業系専門学校）を設置している。

社会の進展に対応し、生徒のニーズに応じた多様な教育及び特色ある学校づくりを推進するために、魅力あるカリキュラムの編成と教育内容の充実に努めるとともに、教職員研修の充実に努める。

■ 熊本市立必由館高等学校



○ 生徒数（平成26年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科	242	236	234	712
普通科国際コース	40	40	39	119
普通科芸術コース	41	38	41	120
普通科服飾デザインコース	40	40	38	118
計	363	354	352	1,069

○ 沿革

- 明治44年 4月 熊本市立実科高等女学校として開校 修業年限2ヵ年
- 大正11年 4月 熊本市立高等女学校と校名変更 修業年限4ヵ年とする
- 昭和6年 2月 現在地に校舎新築移転
- 昭和23年 4月 熊本市立女子高等学校と校名変更 普通科、被服科併設の総合高校となる
- 昭和24年 4月 熊本市立高等学校と校名変更、男女共学となる
- 昭和32年 4月 商業科設置
- 昭和34年 4月 商業科が熊本市立商業高等学校として独立する
- 昭和42年11月 創立55周年並びに校舎落成記念式典を挙げる
- 昭和48年 4月 男子生徒106名が15年ぶりに入学する
- 平成13年 4月 熊本市立必由館高等学校へ校名変更
被服科廃止、校名披露・創立90周年記念式典挙げる
- 平成19年10月 新校舎落成記念式典を挙げる
- 平成23年11月 創立100周年記念式典を挙げる

○ 教育目標

校訓「至誠・進取・和敬」のもと、気品と節度ある態度を養い、正しい判断力と実践力を身に付けた、社会に貢献できる心豊かな生徒の育成を目指している。

平成13年度から普通科国際コース、芸術コース、服飾デザインコースを設置して、生徒の適性や能力を生かした教育を実践し、一人一人の生徒の進路目標の達成を目指して、学力充実に努めている。

○ 各コースの主な活動・実績（平成25年度）

国際コース

- ・ 7月 平成24年度サンアントニオ市派遣留学生、2名帰国
- ・ 7月 平成25年度熊本市・サンアントニオ市交換留学生事業合同説明会
- ・ 7月 1年生国内英語研修：福岡県宗像市（2泊3日）
- ・ 7月 ハイデルベルク市青少年友好訪問団31名来校
- ・ 8月 平成25年度サンアントニオ市派遣留学生3名出発（平成26年5月末まで）
- ・ 2～3月 平成26年度サンアントニオ市派遣留学生選考

※ 英語検定準備・実施 6月、10月、1月

芸術コース（音楽系） 一部抜粋

- ・ 6月 公開テスト（成果発表会）
- ・ 7月 第38回熊本県高等学校器楽コンクール 弦楽器部門（金賞1名、銀賞1名）
- ・ 8月 中学生の体験入学
- ・ 8月 第28回八代青少年音楽コンクール ピアノ部門（銅賞1名）
声楽部門（銅賞1名）
- ・ 8月 第30回熊本県高等学校ピアノコンクール（銀賞1名、銅賞2名）
- ・ 8月 第38回熊本県高等学校独唱コンクール（金賞3名、銀賞3名、銅賞4名）
- ・ 8月 第26回熊本県高等学校管・打楽器独奏コンクール
木管部門（金賞1名、銀賞1名） 金管部門（金賞2名、銀賞1名）
- ・ 8月 第23回全グレンツェンピアノコンクール 優秀賞1名
- ・ 9月 第37回全九州高等学校音楽コンクール 金管部門 優秀賞1名
- ・ 10月 第67回滝廉太郎記念全日本声楽コンクール 最優秀賞・文部科学大臣賞1名
- ・ 10月 第23回日本クラシック音楽コンクール地区本選 優秀賞1名
- ・ 11月 公開テスト（成果発表会）
- ・ 11月 第7回ベーテン音楽コンクール福岡地区本選 弦楽器部門（最優秀賞1名）
- ・ 12月 第46回熊日学生音楽コンクール
ピアノ部門（優良賞1名） 独唱部門（優良賞1名） 弦楽器部門（優良賞1名）
- ・ 1月 第9回JBAソロコンテスト 金管部門（金賞1名、銀賞1名、銅賞1名）
- ・ 2月 公開テスト（成果発表会）

芸術コース（美術系） 一部抜粋

- ・ 7月 九州高文連美書写 佐賀大会 県代表として2名参加
- ・ 8月 全国高等学校総合文化祭 長崎大会 県代表として1名参加
- ・ 第35回記念熊本県日本画協会展 KKT 賞1名
- ・ 第76回銀光展 ジェイ賞1名、他入賞入選多数

- ・第17回熊本県高等学校写生大会 特選11名 準特選11名、入選11名
 - ・第68回熊本県美術協会展 各部門入選多数
 - ・第38回熊本県高等学校美術展 最優秀賞1名（全国大会へ）、優秀賞2名、優良賞5名
 - ・第49回熊本県水彩画会展 県水彩画会賞（大賞）1名、奨励賞3席賞1名、努力賞2名
 - ・第57回西日本読書感想画コンクール 優秀1名、特選4名、準特選8名
 - ・第20回日本高校生デザイングランプリ 審査員特別賞1名、デザイン賞1名
アート賞1名、奨励賞3名、入選4名、優秀学校賞
 - ・第37回九州青年美術公募展 審査員特別賞1名、内藤額縁店賞1名、大牟田文化会館賞1名
- 芸術コース（書道系） 一部抜粋

- ・熊本県高等学校揮毫大会において、10年連続団体優勝
- ・文部科学省後援書写検定合格者 毛筆・硬筆準1級5名、2級全員合格
- ・第32回熊日新鋭書道展 特選2名
- ・第42回四国大学書道展 理事長賞1名
- ・第19回九州高文連揮毫大会 第三席1名
- ・第62回七夕展 日本の七夕展賞 1名
- ・第40回学生学童書道展 <条幅の部、半紙の部> 最高賞 各1名、他各放送局賞多数
- ・第54回熊日書道展 入選11名
- ・第20回熊本県高等学校紙上展 会長賞1名、大賞2名、準大賞4名
- ・第35回読売学生書展 <条幅の部> 佐賀県教育委員会賞、熊本県知事賞、熊本市賞
大分県知事賞、読売新聞社賞 各1名
<半紙の部> 長崎県教育委員会賞1名、読売学生準大賞2名
- ・第4回熊本県新春学生書道展 書道連盟賞2名、大賞1名

服飾デザインコース 一部抜粋

- ・5月～7月 マナー検定に向けての特別講義
- ・7月 第67回県美展（工芸）出展 染額 努力賞2名、入選3名
- ・7月 中学生体験入学実施（中学生190名が参加）
- ・8月 社会見学研修 企業見学、博多座「レ・ミゼラブル」観劇
- ・8月 第67回県美展（工芸） 課題研究染色 努力賞1名、入選4名
- ・8月 高校生対象職業理解推進講座（文化服装学院） 11名参加
- ・9月 文化祭展示・ファッションショー発表
- ・10月 洋食テーブルマナー研修
- ・10月～11月 第34回熊本県・市中学校技術・家庭科展出品展示 約70点を展示
- ・11月～12月 染色特別講義 講師：高津明美先生
- ・1月 コース発表会（第12回） 鶴屋ホール

生徒実行委員を中心に1年間の学習の成果をファッションショー及び展示により発表した。これまでの歴史と伝統を継承しつつ、高齢者の交通安全推進に向けた衣装デザインなど、新たな挑戦にも取り組んだ。服飾デザインコースの生徒としての自覚とともに3学年の連携と団結を密にするよい機会となった。

- ・3月 編み物特別講座 講師：紫垣郁子先生
- ・3月 作品集「輝いて私たち」及びDVD発行

○ 進路状況（現役のみ）

進路先 卒業年度	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年
国 公 立 大 学 等	43	35	35	55	30
私 立 大 学 等	136	134	153	154	182
短 期 大 学	28	29	29	24	21
高 等 看 護 学 校	10	11	8	19	11
専 修 各 種 学 校 等	98	84	79	72	83
進 学 計	315	293	304	324	327
就 職	17	14	20	8	8
そ の 他 未 定	21	24	21	10	16
合 計	353	331	345	342	351

○ 部活動

文化部：美術、演劇、書道、音楽、写真、JRC、放送、文芸、新聞、吹奏楽、箏曲、化学、茶道、煎茶道、和太鼓、和装文化、服飾デザイン、華道同好会

体育部：陸上、剣道、弓道、水泳、新体操、女子バレーボール、男女バスケットボール、男女ハンドボール、ソフトボール、テニス、ソフトテニス、バドミントン、サッカー、野球、卓球

部活動の主な実績（平成25年度）

※音楽部、美術部、書道部、服飾デザイン部はコースの実績を参照

JRC 部

九州ブロック海外派遣事業（ベトナム） 1名参加

第17回ボランティア・スピリット アワード コミュニティ賞

国際ソロプチミスト熊本2013年度クラブ賞「ヴァイオレット・リチャードソン賞」

写真部

「民家の甲子園」全国高等学校対抗民家町並みフォトコンテスト県予選 金賞

平成25年度熊本県高等学校文化連盟写真部前期コンテスト 優良賞

放送部

NHK 杯全国放送コンテスト出場

吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクール熊本県予選 金賞

和太鼓部

第37回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門出場

日本太鼓ジュニア県予選 優勝

水銀に関する水俣条約外交会議歓迎レセプション、熊本市成人式オープニング等で数多く演奏

和装文化部

きもの装いコンテスト九州大会 学校対抗の部1位

陸上競技部

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会

男子400mハードル 3位 女子4×400mリレー 3位

平成25年度全国高等学校陸上競技対校選手権大会南九州地区予選大会

男子400mハードル 7位

剣道部

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会

男子団体 4位 個人の部 3位

女子団体 3位 個人の部 3位

平成25年度県下高等学校新人剣道大会 女子個人 3位

弓道部

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会 男子個人 優勝

平成25年度熊本県高等学校弓道競技大会 男子個人 3位

第32回全国高校弓道選抜大会県予選会 男子団体 準優勝

女子バレーボール部

第45回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会県予選 準優勝

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会 準優勝

天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会熊本ラウンド 準優勝

男子バスケットボール部

霧島盆地大会 準優勝

野球部

熊本市内高校1年生大会 準優勝

○ 教職員研修（平成25年度実績）

・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校人権教育研修会

・進路指導、生徒指導、環境教育担当者研修、10年経験者研修等については、熊本県教育委員会に依頼し、県立高等学校職員研修計画のもとで実施。

■ 熊本市立千原台高等学校



○ 生徒数（平成26年5月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科 国際経済コース	40	41	33	114
普通科健康スポーツコース	40	39	38	117
情報科 OA会計コース	80	81	79	240
情報科 経営情報コース	40	39	38	117
計	200	200	188	588

○ 沿革

昭和32年 4月 熊本市立高等学校に商業科設置

昭和34年 4月 熊本市立高等学校より商業科が分離独立 熊本市立商業高等学校となる
通学区は熊本市内

昭和39年 4月 現在地に校舎新築移転
昭和43年11月 創立10周年並びに校舎、体育館落成記念式典を挙
昭和46年 4月 通学区が県下全域となる
昭和49年 4月 男女共学実施 女子50名が入学
昭和63年 4月 情報処理科新設
平成12年 4月 熊本市立千原台高等学校に校名変更
普通科国際経済コース及び健康スポーツコース新設、商業科等を情報科へ
改編
平成14年 5月 体育館落成
平成19年11月 創立50周年記念式典を挙
平成24年 8月 第1期校舎建替着工
平成26年 1月 校舎新築のための第1期工事竣工

○ 教育目標

- 1 心豊かな人間性や社会性を持ち、国際的な視野に立って健全な社会の発展に寄与することのできる人材を育成する。
- 2 自主的・自発的精神を持ち、自らの課題に積極的に取り組み、問題解決を図っていくことのできる人間を育成する。
- 3 社会生活に必要な基礎的知識や技術及び適正な判断力と実践力を身に付け、責任感と協調性に富む人物を育成する。

○ 各コースの主な活動・実績（平成25年度）

健康スポーツコース

- ・体育理論・健康科学（スポーツに関する科学的な知識やトレーニング方法について学び、実践に活かす）
- ・スポーツⅠ・Ⅱ（部活動と連動させた競技力向上のための取り組み）

国際経済コース

- ・実用英語検定合格者 2級1名、準2級4名、3級35名
- ・第30回全国商業高等学校スピーチコンテスト熊本県予選
レシテーションの部 1年生1名出場
- ・第26回熊本県高等学校英語暗唱大会 1年生、2年生各1名出場
- ・サンアントニオ市との交換留学 セント・アンソニー高校へ 2年生1名
- ・桂林市友好訪問団派遣 1年生1名、2年生2名

○ A会計コース

- ・外部講師招聘授業（日商簿記検定試験対策）
- ・土曜講座（日商簿記検定試験対策）
- ・大原簿記専門学校福岡校との連携（福岡での講習会参加）

経営情報コース

- ・外部講師招聘授業（ITパスポート試験対策）
- ・土曜講座（ITパスポート試験対策）
- ・情報処理検定対策学習合宿（年2回実施）
- ・福岡情報専門学校との連携（福岡での講習会参加）

○ 進路状況（現役のみ）

進路先	卒業年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年
国 公 立 大 学 等		0	2	0	1	1
私 立 大 学 等		53	46	45	51	50
短 期 大 学		8	7	6	5	8
高 等 看 護 学 校		2	5	6	4	4
専 修 各 種 学 校 等		66	66	73	66	71
進 学 計		129	126	130	127	134
就 職		36	44	43	57	37
そ の 他 未 定		20	14	8	8	20
合 計		185	184	181	192	191

○ 部活動

文化部：英会話、ワープロ、パソコン、ライフサイエンス、ボランティア、簿記会計、吹奏楽、書道同好会、

体育部：ハンドボール、女子バレーボール、バスケットボール、サッカー、陸上、バドミントン、野球、柔道、卓球、自転車競技、柔道同好会、剣道同好会、弓道同好会、水泳愛好会

部活動の主な実績（平成25年度）

ハンドボール部

平成25年度全九州高校ハンドボール競技大会熊本県予選 準優勝

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会 準優勝

平成25年度全国高校ハンドボール選抜大会熊本県予選 優勝

平成25年度全国高校ハンドボール選抜大会九州地区予選 第7位（代表権獲得）

平成25年度全国高校ハンドボール選抜大会 ベスト16

平成25年度全九州高校ハンドボール競技大会 出場

陸上競技部

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会

女子1500m 2位、女子3000m 4位

男子1500m 優勝、4位、男子5000m 4位

平成25年度全国高等学校陸上競技対校選手権大会南九州地区予選大会 男子1500m 5位

平成25年度全九州高等学校陸上競技対校選手権大会県予選 男子1500m 2位

平成25年度全九州高等学校陸上競技対校選手権大会 男子5000m 3位

平成25年度熊本県高校女子駅伝 優勝、平成25年度熊本県高校男子駅伝 2位

平成25年全国高校女子駅伝大会出場

自転車競技部

平成25年度全国高等学校総合体育大会自転車競技会 スプリント 8位

平成25年度全九州高等学校体育大会自転車競技大会

ポイントレース 2位、スプリント 5位、スクラッチレース 7位

平成25年度熊本県高等学校総合体育大会自転車競技大会

スプリント 優勝、4km 速度競争 2位、1km タイムトライアル 2位
スクラッチレース 3位

2013年 JOC ジュニアオリンピックカップ自転車競技大会 ケイリン 5位

第48回全国都道府県対抗自転車競技大会 スプリント 8位

平成25年度全国高校選抜自転車競技大会 スクラッチ 6位

野球部

第61回NHK旗高等学校野球大会 ベスト8

第131回九州地区高校野球熊本大会 ベスト16

吹奏楽部

第57回熊本県吹奏楽部コンクール 高等学校Bパート 銀賞

ボランティア部

第21回アフリカの子どもの日 in Kumamoto 実行委員、赤い羽根共同募金活動

第17回ボランティア・スピリット ブロック賞（個人）受賞（全国大会出場）

城西小正門前挨拶運動（平成21年11月から月1回実施）

ユニセフハンド・イン・ハンド（全国一斉年末募金活動）カレンダー募金

白羊保育園ふれあいボランティア（平成21年11月から、毎週水曜日と金曜日の放課後に実施）

ネパールへの書き損じはがき贈呈式（平成25年3月 千原台高校で実施）

○ 平成25年度情報科の上級資格取得者数（ ）は前年人数

経済産業省 情報処理技術者試験（ITパスポート）5（3）人

日本商工会議所簿記検定試験 2級 16（36）人

日本商工会議所簿記検定試験 3級 74（48）人

全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験 1級 32（17）人

○ 教職員の研修（平成25年度実績）

・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校人権教育研修会

・教務主任、進路指導、生徒指導、環境教育担当者研修、10年経験者研修等については、熊本県教育委員会に依頼し、県立高等学校職員研修計画のもとで実施。

■ 熊本市立総合ビジネス専門学校



○ 生徒数（平成26年5月1日）

	1年	2年	計
総合ビジネス科	67	62	129
OA経理科	13		13
計	80	62	142

○ 沿革

昭和24年 4月 熊本市立商業実務員養成所創設

昭和30年 4月 各種学校として認可

昭和31年 3月 熊本市宮内町に移転

- 昭和34年 4月 熊本市立実務商業学校と改称
- 昭和50年 4月 昼間部の学級編成を変更
- 昭和54年 4月 専修学校認可 熊本市立実務商業専門学校と改称
- 平成 3年 4月 総合ビジネス科（高卒2年制の専門課程）を設置し、現校舎に移転
開校と同時に熊本市立総合ビジネス専門学校と改称
- 平成 7年 1月 総合ビジネス科卒業生に「専門士」（商業実務専門課程）の称号の付与認可
- 平成 9年 7月 公開講座開始（ワープロ・パソコン）
- 平成11年11月 創立50周年記念式典
- 平成12年 4月 経理科廃止
- 平成19年 4月 【総合ビジネス科（昼間）】経理ビジネスコース、経理情報コース、観光
サービスコース、【OA経理科（夜間）】と改編
- 平成21年11月 創立60周年記念大同窓会

○ 教育目標

① 総合ビジネス科（修業期間 2年）

- ・経理ビジネスコース：高度の簿記会計科目を中心に学び、経理・総務・営業事務等を担当するための幅広く、高度なビジネス実務能力をもった人材を育成する。
- ・経理情報コース：簿記やビジネス実務とともに、高度なパソコン利用技術を学び、広いビジネス実務に適応できる事務処理能力をもった人材を育成する。
- ・観光・サービスコース：ホテル、旅行業などの科目に実習も取り入れ、観光・サービス業に関する事務能力を高め、コンベンション都市を支える人材を育成する。

② OA経理科（修業期間1年 夜間）

一般社会人を対象として、簿記会計、パソコン、ワープロ、電卓等の知識・技能を養う。

○ 教職員の研修（平成25年度実績）

- ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校人権教育研修会
- ・進路指導研修会

○ 進路状況（卒業年度の3月末現在）

ア 卒業生数

卒業年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
総合ビジネス科	69	66	67	58	66
OA経理科	20	9	5	10	8

イ 業種別進路

卒業年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
建設業	0	3	3	2	7
製造業	5	8	1	17	9
運輸・通信業	5	8	3	3	0
卸売・小売業	14	5	12	8	14
金融・保険業	3	2	0	0	2

サービス業	19	25	24	23	20
そ の 他	1	0	1	0	0
小 計	47	51	44	53	52
未 定	15	11	18	1	12
自己就職・進学他	7	4	5	4	2
合 計	69	66	67	58	66

ウ 職種別進路（未定・自己就職・進学他を除く）

卒業年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
事 務	39	39	33	39	39
営業・販売	3	4	2	5	2
技 能	0	3	0	1	0
サービス	5	5	8	7	4
そ の 他	0	0	1	1	7
合 計	47	51	44	53	52

エ 就職内定率（％） （３月３１日現在）

卒業年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
総合ビジネス科	75.8	81.0	71.0	98.1	81.3

（３月末現在のデータであるが、年度を越えても就職支援を行い、各年度ほぼ 90％を超える。）

○ 最近の主な就職先一覧（過去5年間）

建設業	永伸、エース産業、大津建設工業、小城板金金属工業、皆楽園、木村建設、光進建設、こざき、コスモホーム、松栄パナホーム熊本、多田産業、西日本システム建設、ミナミ冷設
製造業	愛三熊本、阿蘇中央生コンクリート、上村エンタープライズ、ウルトラハウス、お菓子の香梅、オジックテクノロジーズ、オムロンリレーアンドデバイス、九州ショーワ、清永木工所、熊本ユシ工業、再春館製薬所、三栄工業、塩山食品、シンエイ産業、ソリューション、ダルマックス、南星機械、ハーネス・イシハラ、バド・プレス、不二宮製作所、フュージョン、ベネフーズ、村上産業、リンクライン
運輸・通信業	九州産交ツーリズム、熊本製粉ロジスティクス、熊本電鉄、サンワールド九州、JR九州、旅のよろこび、トラベルミュー、農協観光、フクワ物流、フレンドシップツアー、山一観光、旅行綜研、ロータス観光
卸売・小売業	植木青果市場、エーコープ熊本、えがお、大木商店、おすそわけ村、岸工業九州、餃子屋式ノ式、清田時計店、ケイワード九州、ケーズホールディングス、三興バルブ継手、ジャパンイマジネーション、ジョイフル、SHIN-EI、新生堂、西紅ハローグリーン、善徳丸建材、タケシタ調剤薬局、嶽本薬局、東光石油、トヨタL&F熊本、トライアルカンパニー、ドラッグストアコスモ21、ドラッグミユキ、南国殖産、西日本電材、日創建材、ネットトヨタ熊本、ネットトヨタ中九州、ノバラ、ハウディ、橋本屋、フクダ電子西部南販売、古荘本店、Misumi
金融・保険業	くまもと共済、西日本チケット
サービス業	アートワーク、愛誠会、アズマシティ開発、アドルーム、天草慈恵病院、天草地域医療センター、荒尾市清掃公社、アンクル、出水幼稚園、インプラントセンター九州歯科診療所、エコポート九州、NTTドコモ九州熊本支店、エフ・ソルト、MSS、奥の湯、尾場瀬税理士事務所、帯山中央病院、小山眼科クリニック、加藤神社、カネヨシ商事、上熊本経営センター、カローラ熊本ライフビジネス、菊池観光ホテル、キャスティングアイ、キャリアサポート、くまもとエミナース、熊本計算センター、熊本泌尿器科病院、熊本ホテルキャッスル、経営合理化研究所、コクピットエフワン、JA阿蘇、JAかみましき、JA鹿本、JA熊本うき、JTB熊本リレーションセンター、柴田内科・柴田整形外科、城の湯、真光会三和荘、大劇、第2さくら体育幼稚園、竹野税理士事務所、千歳会計社、ちとせ眼科、T・H・C、デルタアソシエーション、東臣、トヨタレンタリース熊本、中原歯科クリニック、中村哲也税理士事務所、ナトーコンピュータ、にのみや歯科医院、ニュースカイホテル、パインシステム、東税務会計事務所、ひなた、ひらの歯科医院、ホテル日航熊本、ホテルニューオータニ熊本、ホワイト歯科、牧野皮膚科医院、マツオカ法律事務所、松見内科クリニック、三森循環器科呼吸器科病院、未来税務会計事務所、メルパルク、むらかみ眼科、守田税理士事務所、矢部ゴルフ、ヤマイ、山内ユリ子税理士事務所、山鹿中央病院、ユース会計社、優彩、ゆうしん、湯前木材事業協同組合、レ・デ・モ
公務その他	氷川土地改良区

○ 年度別検定試験等取得数（該当年度の取得者の数字であり、既取得者は含まれていない）※O A経理科を含む

主催者及び検定試験名等	レベル	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
日本商工会議所主催 簿記検定試験	1 級	—	—	—	—	—
	2 級	19	28	46	31	20
	3 級	44	40	50	41	40
日本商工会議所主催 日商 P C 検定試験（データ活用）	2 級	2	2	2	—	—
全国経理教育協会主催 簿記能力検定試験	上 級	1	1	—	—	—
	1 級	20	26	25	16	23
	会 計	20	26	25	16	23
	工 簿	33	47	50	47	37
	2 級	51	44	30	37	35
	3 級	13	12	12	8	11
建設業振興基金主催 建設業経理士検定試験	1 級財表	—	—	—	—	—
	1 級原価	—	—	—	—	—
	2 級	12	18	12	10	17
全国経理教育協会主催 税務会計能力検定試験	所得税 1 級	—	—	1	—	—
	所得税 2 級	25	18	17	22	12
	所得税 3 級	33	28	—	36	31
	法人税 2 級	4	11	18	2	12
	法人税 3 級	31	28	—	25	—
	消費税 2 級	—	3	6	—	—
全国旅行業協会主催 国内旅行業務取扱管理者試験	国家資格	11	5	10	6	6
日本旅行業協会主催 総合旅行業務取扱管理者試験	国家資格	1	3	1	2	—
中央職業能力開発協会主催 コンピュータサービス技能評価試験 ワープロ部門	1 級	2	5	2	—	—
	2 級	66	61	56	54	—
	3 級	90	79	69	76	—
中央職業能力開発協会主催 コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門	1 級	1	1	—	—	—
	2 級	27	61	57	58	—
	3 級	88	78	70	77	—
サーティファイ主催 Word 文書処理技能認定試験（平成25年度より）	1 級	—	—	—	—	78
	2 級	—	—	—	—	58
	3 級	—	—	—	—	68
サーティファイ主催 Excel 表計算処理技能認定試験（平成25年度より）	1 級	—	—	—	—	52
	2 級	—	—	—	—	66
	3 級	—	—	—	—	73
サーティファイ主催 Access ビジネスデータベース技能認定試験	1 級	4	12	12	12	59
	2 級	61	52	62	59	62
	3 級	65	66	67	59	65
サーティファイ主催 Illustrator クリエータ能力認定試験	3 級	14	11	11	—	—
実務技能検定協会主催 秘書技能検定試験	準 1 級	—	—	—	—	—
	2 級	85	24	—	—	—
	3 級	1	1	—	—	—
実務技能検定協会主催 ビジネス文書技能検定試験	2 級	55	50	52	30	34
	3 級	63	65	53	64	44
実務技能検定協会主催 ビジネス実務マナー技能検定試験（平成22年度より）	2 級	—	—	43	35	47
	3 級	—	57	55	56	38
日本英語検定協会主催 実用英語技能検定試験	2 級	—	3	1	1	—
	準 2 級	6	5	9	7	9
全国語学ビジネス観光教育協会主催 観光英語検定試験	2 級	2	1	2	5	2
	3 級	19	10	19	9	10
国際ビジネスコミュニケーション協会主催 T O E I C I P テスト	500点以上	2	1	2	—	—
日本電卓技能検定協会主催 電卓技能検定試験	四 段	—	1	—	—	—
	式 段	—	3	2	1	—
	初 段	—	—	1	1	2
	1 級	30	40	39	39	36
	2 級	13	30	14	20	15
	3 級	55	44	44	40	25
診療報酬算定能力審査会主催 医科医療事務検定試験	2 級	3	—	—	—	—
	3 級	19	31	—	14	16
日本ホテル・レストランサービス技能協会主催 レストランサービス技能検定試験	3 級	12	5	3	7	2
情報処理推進機構主催 初級システムアドミニストレータ試験	国家資格	1	—	—	—	—
情報処理推進機構主催 I T パスポート試験（平成21年度より）	国家資格	—	5	9	4	13